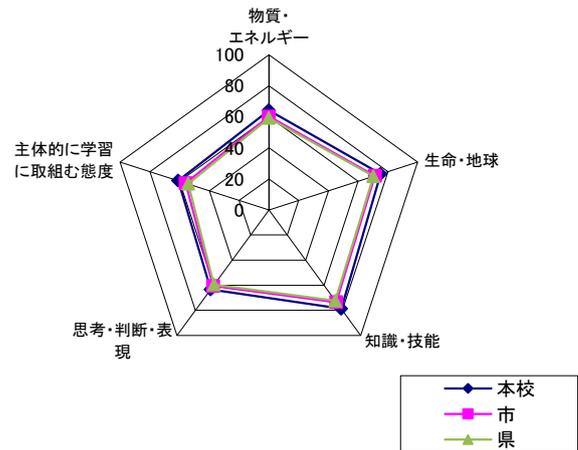


宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.2	60.2	59.2
	生命・地球	75.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	78.7	73.4	72.3
	思考・判断・表現	63.3	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	61.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○物質とエネルギーの平均正答率は、64.2%で県の平均を5.0ポイント上回っている。</p> <p>○「光のせいしつ」では、「鏡の枚数を増やして光を重ねた部分の明るさと温度のようすを指摘できる。」の正答率は92.2%で県の平均正答率を4.2ポイント上回っている。</p> <p>○「じしゃくのせいしつ」では、「磁石が物を引きつける力は、磁石と物の距離によって変わることを推測することができる。」の正答率は61.0%だったが、県の平均よりも8.8ポイント上回った。</p> <p>●「電気の通り道」では、「回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測することができる。」の正答率は44.2%で低い。</p> <p>●「光のせいしつ」の「ソーラークッカーで料理ができる理由を説明することができる。」の正答率は49.4%で低く、無解答も9.1%であった。</p> <p>●「物の重さ」では「容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を、実験の結果から推測し、説明することができる。」の正答率は19.5%で、県の平均を3.0ポイント上回っているが、無解答が22.1%であった。</p>	<p>・「物の重さ」や、「光のせいしつ」について、生活経験での疑問や問いを引き出す導入や授業展開を工夫し、実験や観察の結果と日常生活を結び付けて考えさせることをより重視し、身の回りの事象を興味・関心をもってとらえられるようにする。</p> <p>・観察や実験の際、予想を立てるときや自分の考えを書くときなど、その理由や根拠をきちんと記述することができるようにし、論理的な思考で物事を的確に捉えることができるようにする。</p> <p>・問題文を正しく読み取ることができるよう、国語科との関連を図りながら、文を正しく読み取ることができるようにする。</p> <p>・記述式の問題に無解答が多かったので、普段の授業から自分の言葉で振り返りやまとめを記述する指導を充実させる。</p>
生命・地球	<p>○生命と地球の平均正答率は75.1%で県の平均を4.8ポイント上回っている。</p> <p>○「身近な自然の観察」の問題では、無解答もなく、3つの問題とも県の平均を約10ポイント以上上回っている。</p> <p>●「こん虫の育ち方」の、「完全変態と不完全変態のこん虫を理解している。」では、正答率が68.8%で県の平均よりも7.2ポイント下回っている。</p> <p>●「太陽と地面のようす」の「太陽の動き方から、午後3時の影の位置を推測することができる。」の正答率は42.9%で県の平均を1.2ポイント下回っている。</p>	<p>・「太陽と地面のようす」の内容について、かげの変化の仕方と太陽の動きをより関連付けて考えられるように指導を工夫する。</p> <p>・こん虫や植物の体のつくりについてはより多くの種類のこん虫や植物を比較・関連させることで、育ち方などの理解を促す。</p> <p>・自然観察する際には、めあてに沿った振り返りを行ったり観察のポイントを児童の疑問や知りたいことから課題を見出し、絞って提示したりすることで、自然現象について興味・関心をより高め、児童一人一人が自主的・主体的に活動に取り組めるようにする。</p>